

# 松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成31年2月】

■調査概要（データ対象期間：平成31年2月1日～2月28日）

- 調査期間：平成31年2月28日～平成31年3月20日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査
- 回収状況：建設業25企業、製造業20企業、卸売業15企業、小売業25企業  
飲食業17企業、サービス業48企業（運輸、不動産仲介業を含む）  
<合計150企業>
- 調査項目：2月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価  
状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

# 概況

## 業況DI、水準DIともにマイナス幅が縮小

### 1. 業況判断

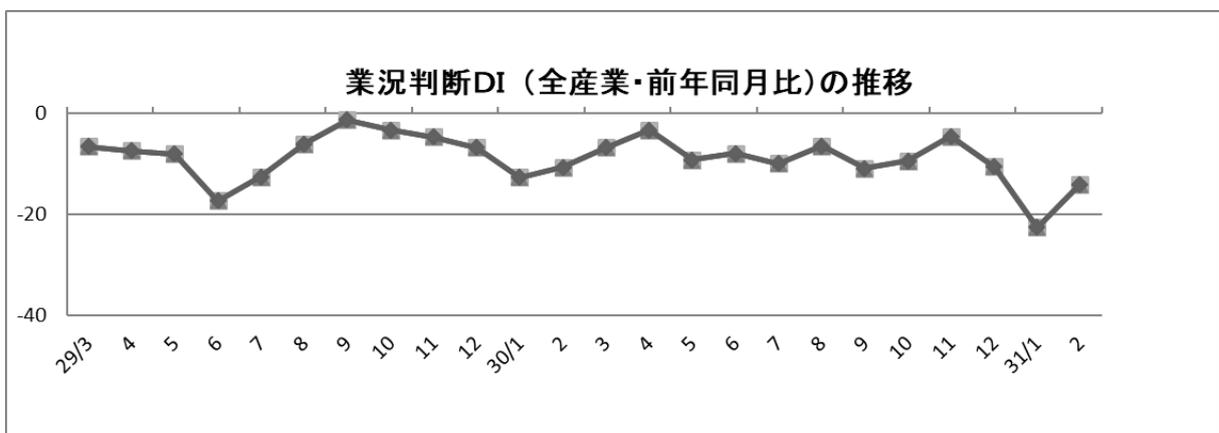
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲22.5）よりマイナス幅が8.5ポイント縮小し、▲14.0となった。業種別では、サービス業はマイナスからプラスに転じた。卸売業は横ばいとなった。小売業、製造業はマイナス幅が縮小し、飲食業、建設業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲23.9）よりマイナス幅が8.6ポイント縮小し、▲15.3となった。業種別では、製造業、小売業、サービス業、飲食業、建設業はマイナス幅が縮小し、卸売業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	10.0 (8.6)	66.0 (60.3)	24.0 (31.1)	▲14.0 (▲22.5) ↗	10.7 (9.9)	63.3 (56.3)	26.0 (33.8)	▲15.3 (▲23.9) ↗
建設業	0.0 (5.0)	80.0 (85.0)	20.0 (10.0)	▲20.0 (▲5.0) ↘	8.0 (0.0)	72.0 (85.0)	20.0 (15.0)	▲12.0 (▲15.0) ↗
製造業	10.0 (4.0)	55.0 (52.0)	35.0 (44.0)	▲25.0 (▲40.0) ↗	15.0 (8.0)	60.0 (48.0)	25.0 (44.0)	▲10.0 (▲36.0) ↗
卸売業	6.7 (6.7)	60.0 (60.0)	33.3 (33.3)	▲26.6 (▲26.6) →	6.7 (20.0)	60.0 (53.3)	33.3 (26.7)	▲26.6 (▲6.7) ↘
小売業	8.0 (11.1)	72.0 (40.8)	20.0 (48.1)	▲12.0 (▲37.0) ↗	8.0 (11.1)	64.0 (44.5)	28.0 (44.4)	▲20.0 (▲33.3) ↗
飲食業	17.6 (17.6)	23.6 (29.5)	58.8 (52.9)	▲41.2 (▲35.3) ↘	17.6 (17.6)	29.5 (23.6)	52.9 (58.8)	▲35.3 (▲41.2) ↗
サービス業	14.6 (8.5)	77.1 (76.6)	8.3 (14.9)	6.3 (▲6.4) ↗	10.4 (8.5)	72.9 (68.1)	16.7 (23.4)	▲6.3 (▲14.9) ↗

( )内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計  
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計

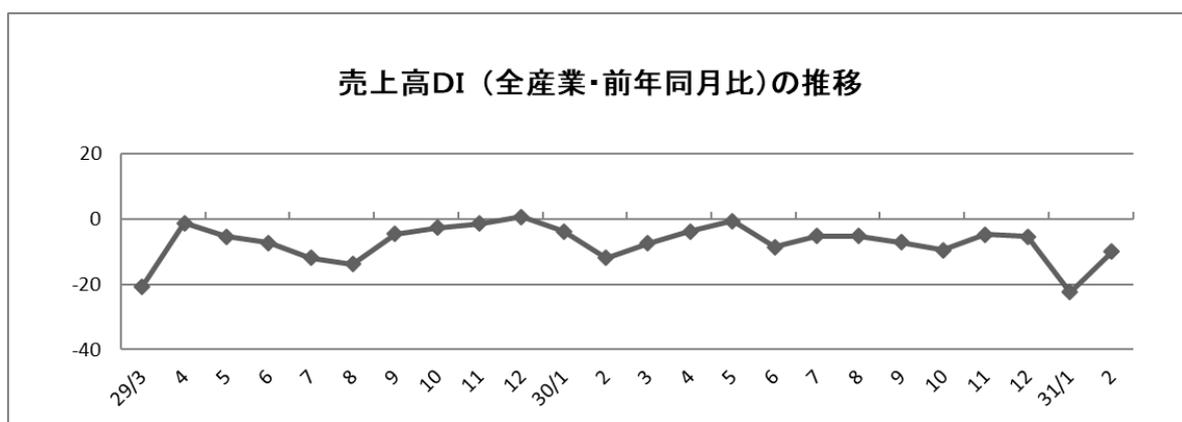


## 2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲22.5）からマイナス幅が12.5ポイント縮小し▲10.0となった。業種別に見るとサービス業はマイナスからプラスに転じた。製造業、小売業、卸売業はマイナス幅が縮小し、飲食業は横ばいとなった。建設業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	30年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月	
全 体	▲ 7.4	▲ 3.8	▲ 0.6	▲ 8.6	▲ 5.3	▲ 5.3	▲ 7.2	▲ 9.6	▲ 4.7	▲ 5.4	▲ 9.4	▲ 22.5	▲ 10.0	↗
建 設 業	14.2	16.6	4.6	▲ 4.6	▲ 8.7	4.3	0.0	16.0	8.7	14.3	0.0	▲ 10.0	▲ 20.0	↘
製 造 業	▲ 14.3	▲ 14.3	8.7	▲ 5.0	0.0	18.2	13.0	0.0	8.7	▲ 16.6	▲ 19.1	▲ 36.0	▲ 10.0	↗
卸 売 業	12.5	7.7	▲ 15.4	26.6	▲ 26.7	▲ 18.2	▲ 30.0	▲ 54.5	▲ 7.2	▲ 38.5	▲ 21.4	▲ 40.0	▲ 26.7	↗
小 売 業	▲ 18.2	▲ 11.5	▲ 10.7	▲ 38.7	▲ 8.0	▲ 30.8	▲ 29.0	▲ 10.0	▲ 26.7	▲ 13.4	▲ 6.0	▲ 29.6	▲ 12.0	↗
飲 食 業	▲ 35.0	▲ 11.1	▲ 25.0	▲ 22.2	▲ 21.1	▲ 61.1	▲ 15.8	▲ 52.6	▲ 17.6	▲ 22.2	▲ 5.6	▲ 35.3	▲ 35.3	→
サービス業	0.0	▲ 2.7	10.2	2.3	8.5	15.4	2.1	0.0	2.3	10.0	▲ 9.5	▲ 6.4	10.5	↗

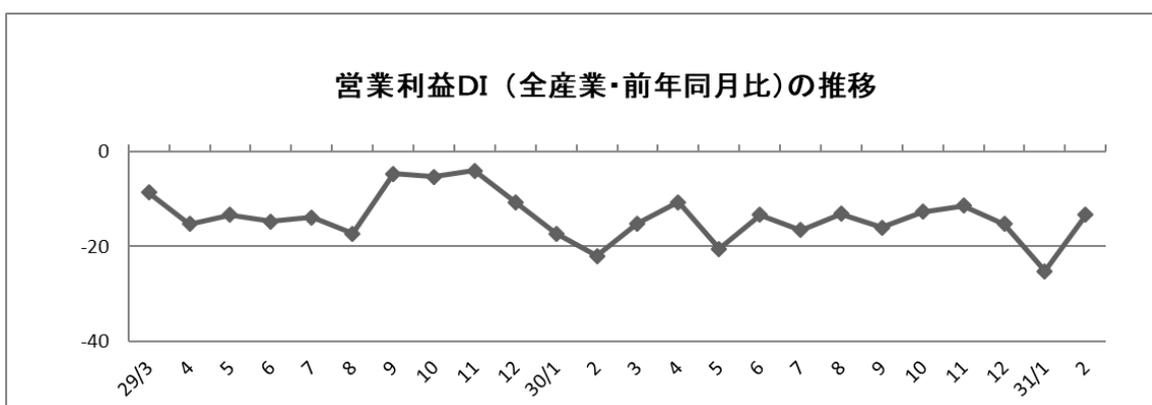


## 3. 営業利益DI（前年同月比）

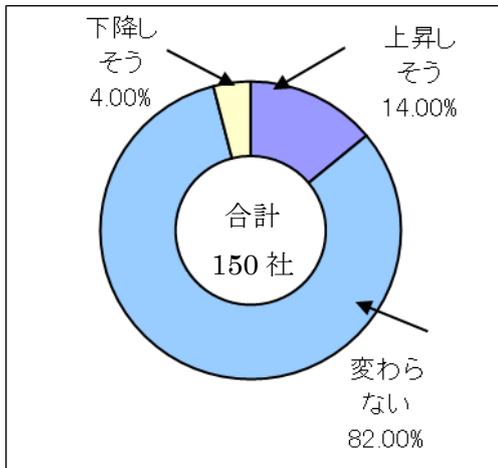
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲25.2）よりマイナス幅が11.9ポイント縮小し、▲13.3となった。業種別に見ると、サービス業はマイナスからプラスに転じた。卸売業、小売業、製造業はマイナス幅が縮小し、建設業、飲食業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	30年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月	
全 体	▲ 22.0	▲ 15.1	▲ 10.6	▲ 20.5	▲ 13.3	▲ 16.5	▲ 13.1	▲ 16.0	▲ 12.7	▲ 11.4	▲ 15.3	▲ 25.2	▲ 13.3	↗
建 設 業	▲ 14.3	▲ 22.2	▲ 22.7	▲ 13.6	▲ 21.7	▲ 17.4	▲ 22.7	▲ 12.0	▲ 13.1	▲ 4.7	0.0	▲ 15.0	▲ 16.0	↘
製 造 業	▲ 47.6	0.0	▲ 4.4	▲ 15.0	▲ 18.2	18.2	13.0	0.0	8.7	▲ 11.1	▲ 23.8	▲ 32.0	▲ 30.0	↗
卸 売 業	▲ 37.5	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 6.6	▲ 6.7	▲ 18.2	▲ 10.0	▲ 36.3	▲ 7.2	▲ 30.8	▲ 7.1	▲ 40.0	▲ 6.7	↗
小 売 業	▲ 15.1	▲ 26.9	▲ 25.0	▲ 54.9	▲ 20.0	▲ 46.2	▲ 35.4	▲ 20.0	▲ 36.6	▲ 20.0	▲ 24.2	▲ 44.4	▲ 12.0	↗
飲 食 業	▲ 35.0	▲ 22.2	▲ 31.2	▲ 33.3	▲ 36.9	▲ 66.6	▲ 26.3	▲ 47.4	▲ 17.6	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 35.3	▲ 41.1	↘
サービス業	▲ 5.1	▲ 5.4	8.1	▲ 2.3	4.3	1.9	▲ 2.1	▲ 6.4	▲ 7.0	4.0	▲ 14.3	▲ 6.4	2.1	↗

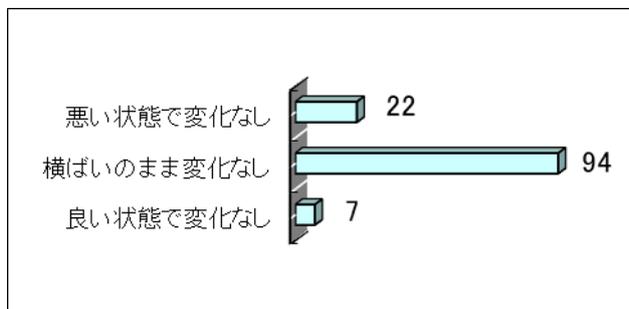


◇ 向こう3カ月の見通し ◇



○平成31年3月～平成31年5月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ1.42ポイント増加し14.00%、「下降しそう」が2.62ポイント減少し4.00%となった。業種別の見通しDIは建設業(12.0)、製造業(0.0)、卸売業(6.7)、小売業(4.0)、飲食業(11.7)、サービス業(16.7)であった。

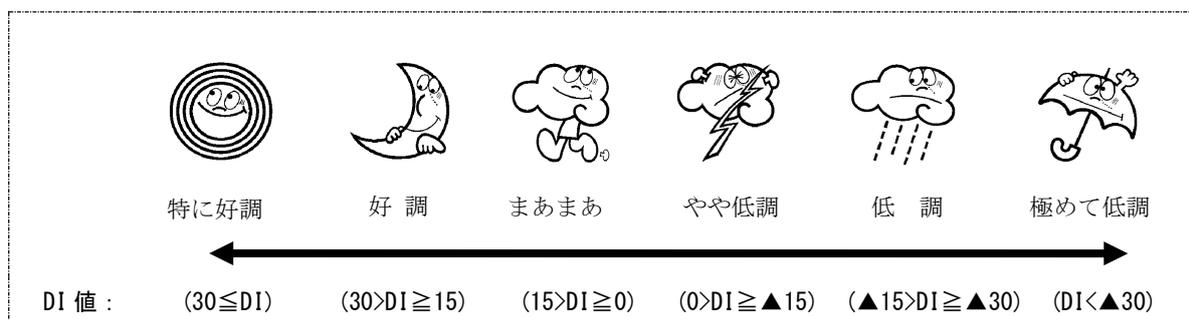
➡「上昇しそう」では「昨年と比べて今の所、内容の伴う物件が受注できているため」「冬場の1月、2月は売上が減少した。波があるが3月から良くなる見込みのため」「2月に大型補正とともに来年度の公共予算が増加するため」(建設業)「3月の年度末、4月の統一選挙と動きがあるため」「需要増加が見込める期間のため」「受注増が見込めるため」(製造業)「販売客が増加したため」(卸売業)「元号が変わることによる特需が見込めるため」「店舗を改装するため」(小売業)「3、4月中旬の予約は確保できたため」「歓送迎会の時期で宴会が増えるため」(飲食業)「契約見込件数が増えてきたため」「観光シーズンに入るため」「職業訓練受講者数が再び増加に転じたため」「2つのプロジェクトについて進捗、隔月で納品、回収を見込むため」「新しいケア商品の追加のため」「体験に来たいと問い合わせが来たため」「新年度に向かい研修が増える予想のため」(サービス業)といった声が寄せられた。



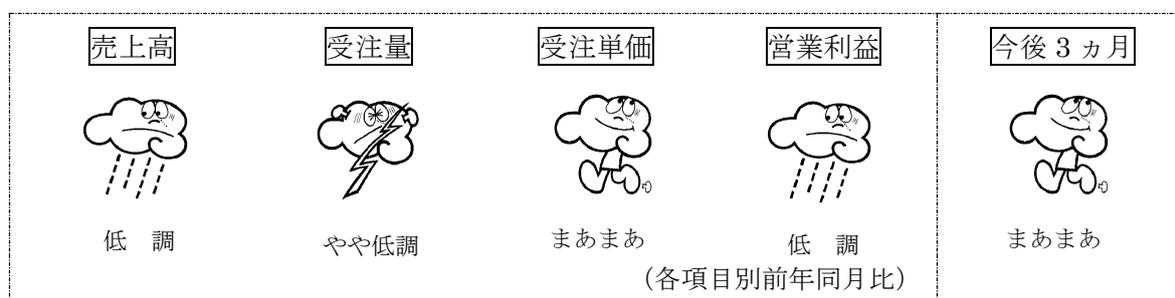
➡「下降しそう」では「全く売れないため」「各指標が下ってきているため」「例年、時期的に受注減少するため」(製造業)「不景気感が強まって益々財布の紐が堅くなりそうであるため」「米朝、米中、英関係、選挙等々、全て不透明なため」(小売業)といった声が寄せられた。

# 業種別景況

## <DI | 君の景況判断>



## 1. 建設業



【項目別DIの推移】

	30年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月
売上高	14.2	16.6	4.6	▲4.6	▲8.7	4.3	0.0	16.0	8.7	14.3	0.0	▲10.0	▲20.0
受注量	19.1	▲9.5	▲4.5	0.0	0.0	13.1	9.1	12.0	▲8.7	9.5	13.7	▲10.0	▲12.0
受注単価	▲9.5	▲5.5	▲4.5	0.0	▲8.7	0.0	4.6	8.0	▲4.4	4.8	4.6	5.0	4.0
営業利益	▲14.3	▲22.2	▲22.7	▲13.6	▲21.7	▲17.4	▲22.7	▲12.0	▲13.1	▲4.7	0.0	▲15.0	▲16.0
見通し	14.3	0.0	4.5	18.2	13.1	8.7	9.1	12.0	4.4	4.8	13.7	10.0	12.0

## <経営者の目・見方・etc>

鉄工

・いよいよオリンピック前年となり、忙しさはピークを迎えそうであるが、一部の資材（特にボルト）の調達が極端に困難になっている。この状況が続くようであれば、どこかで鉄骨の需要は下落せざるを得ないと感じる。いつも感じることであるが、自分の都合や利益だけではなく「利他」を思うことは状況が困難になるほど難しいと思う。

・現場、運送の人手不足、価格高騰や働き方改革等、経営負担は増加するが、受注単価が伸びないため、繁忙の割に利益に結びつかない。

・4月、5月から良くなるのではないかと思う。

総合建設

・3月1日より決済労務単価が約3%上がった。

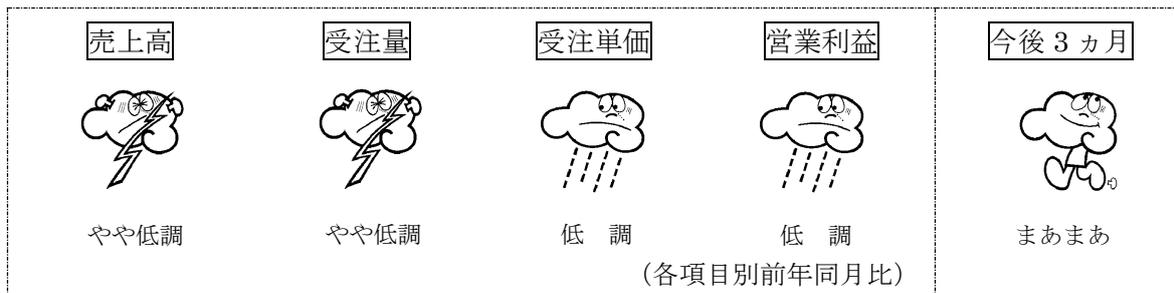
建築工事

・公共工事の見通しも無く、民間の小口受注も減少気味で不安である。

管工事

・建設業全体が現状の受注状況では変わっていかない。大手主導の形ではいくら努力しても限度があり、限界を感じる。

## 2. 製造業



【項目別DIの推移】

	30年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月
売上高	▲14.3	▲14.3	8.7	▲5.0	0.0	18.2	13.0	0.0	8.7	▲16.6	▲19.1	▲36.0	▲10.0
受注量	▲14.3	▲9.5	8.7	0.0	▲4.5	4.6	13.0	▲4.0	8.7	▲22.2	▲23.8	▲40.0	▲5.0
受注単価	▲23.8	▲23.8	▲13.0	▲5.0	▲18.2	▲13.7	▲13.1	▲16.7	▲8.7	▲16.7	▲9.5	▲16.0	▲20.0
営業利益	▲47.6	0.0	▲4.4	▲15.0	▲18.2	18.2	13.0	0.0	8.7	▲11.1	▲23.8	▲32.0	▲30.0
見通し	9.5	▲14.3	▲8.7	15.0	▲4.6	0.0	8.7	▲4.2	▲8.7	▲11.1	▲14.3	12.0	0.0

### <経営者の目・見方・etc>

印刷

- ・年度末の印刷物、学校関係のデフレマインドが一向に変わらない。紙の値上げにも対応が必要となっている。
- ・年度末、年度初めの繁忙期に重なって選挙関連の動きがあるが、選挙こそ印刷業界の閑散期に行って業務量の標準化、働き方改革に貢献して欲しいものである。

菓子

- ・流通菓子製造では物流費、原材料費の値上げが徐々に利益を圧迫している。値上げも考えているが、同業者の動向が気になる。

小型情報機械機器

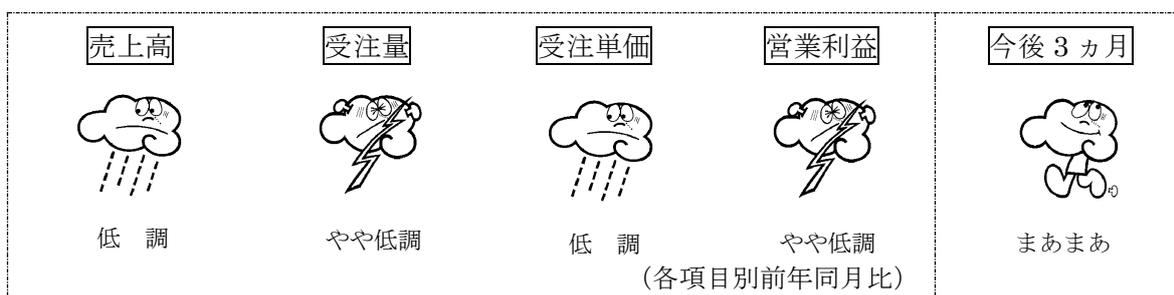
- ・物作りは、月々の変動が激し過ぎる。政府の見解とはかけ離れている。

金属塗装

- ・全般的に受注が減少している。今後も増えるという情報は入っていない。米中貿易摩擦の影響で中国の減速が大きい。



## 3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	30年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月
売上高	12.5	7.7	▲15.4	26.6	▲26.7	▲18.2	▲30.0	▲54.5	▲7.2	▲38.5	▲21.4	▲40.0	▲26.7
販売客数	0.0	▲15.4	▲7.7	0.0	▲6.7	0.0	▲10.0	▲27.3	▲14.3	▲15.4	▲14.3	▲13.3	▲6.7
販売客単価	18.7	23.1	0.0	▲6.6	▲6.7	▲9.1	10.0	0.0	14.3	▲7.7	0.0	▲20.0	▲20.0
営業利益	▲37.5	▲23.1	▲15.4	▲6.6	▲6.7	▲18.2	▲10.0	▲36.3	▲7.2	▲30.8	▲7.1	▲40.0	▲6.7
見通し	▲6.3	0.0	▲7.7	6.7	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	▲7.7	▲14.3	▲6.7	6.7

<経営者の目・見方・e t c>

- 土産品
  - ・全般的には上昇傾向にあるが、特にこれといったヒット商品もなく、春が待ち遠しい。
- 金属製品
  - ・米中貿易問題の影響により半導体関連の低迷が続いている。
  - ・建築関連は製造業の落ち込みや副資材の納期ずれ込みもあり、案件が一部保留になるなど不透明感が出てきている。
- 機械工具
  - ・米中関係の貿易戦争の影響が出てきている。

## 4. 小売業



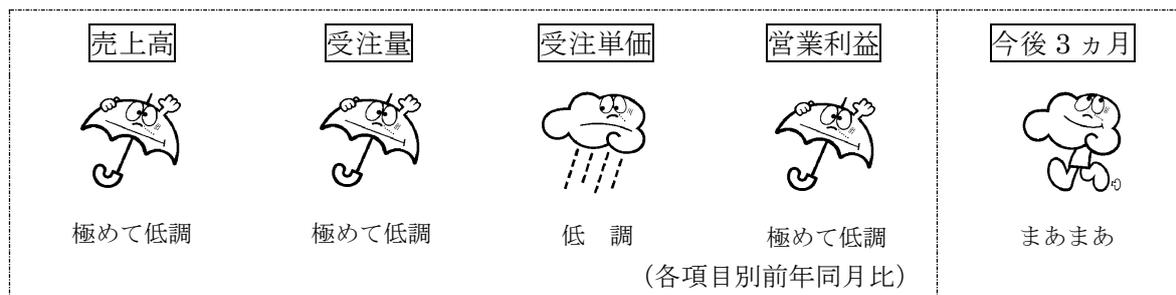
【項目別DIの推移】

	30年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月
売上高	▲18.2	▲11.5	▲10.7	▲38.7	▲8.0	▲30.8	▲29.0	▲10.0	▲26.7	▲13.4	▲6.0	▲29.6	▲12.0
販売客数	▲18.1	▲27.0	▲10.7	▲25.8	▲32.0	▲38.5	▲38.7	▲23.3	▲26.6	▲20.0	▲24.2	▲37.0	▲16.0
販売客単価	3.0	11.6	17.9	▲19.4	0.0	▲7.7	▲12.9	▲3.3	▲13.4	▲3.4	0.0	▲14.8	4.0
営業利益	▲15.1	▲26.9	▲25.0	▲54.9	▲20.0	▲46.2	▲35.4	▲20.0	▲36.6	▲20.0	▲24.2	▲44.4	▲12.0
見通し	0.0	▲3.9	▲3.6	3.2	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲9.1	0.0	4.0

<経営者の目・見方・e t c>

- 印章
  - ・4月1日以降は新元号に絡む注文が殺到すると思われるため、ご注文は早めに願いたい。お客様単価の高い状況が続いている。この状況を維持出来るように努力したい。インターネットで検索してご来店くださるお客様が増えている。
- 印章・刃物研ぎ
  - ・動きのない事は、今後吉となるか凶となるか不透明である。
- 住宅機器
  - ・1月から動きが止まってしまう、心配である。見積もりはとても多かったのも、4月着工現場が多いと思われる。
- 生鮮食品
  - ・天気は左右されるが、雪が降らない事が有難い。10月から消費税、又キャッシュレスがどうなるのか心配である。
- おやき
  - ・納品先チェーン店の業績が低下したため取引を止めたが、当店が認知されてきたのか、来店客が増えたので売上は横ばいであった。近隣の外食店や居酒屋の業績が悪いようである。
- 薬局
  - ・雪が降らなかったのがよかった。
- ショッピングセンター
  - ・暖冬傾向で雪による動員影響は少なかったものの、業界全体では衣料品の不振化が顕著になってきている。バレンタインの動向は大きな変化はなくイベント消費は堅調である。
- 婦人服
  - ・ポイントが倍になる企画に集客があった。スプリングコートを売っていきいたいと思う。デザインも良く、好評であった。何に焦点を当てるのかハッキリさせていく事が大切であると思う。

## 5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	30年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月
売上高	▲ 35.0	▲ 11.1	▲ 25.0	▲ 22.2	▲ 21.1	▲ 61.1	▲ 15.8	▲ 52.6	▲ 17.6	▲ 22.2	▲ 5.6	▲ 35.3	▲ 35.3
販売客数	▲ 30.0	0.0	▲ 12.5	▲ 22.2	▲ 21.0	▲ 72.2	▲ 15.8	▲ 52.6	▲ 11.7	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 23.6	▲ 41.1
販売客単価	▲ 10.0	▲ 5.5	▲ 12.5	▲ 16.6	▲ 10.5	▲ 33.3	▲ 5.3	▲ 36.8	▲ 5.9	▲ 27.8	▲ 16.6	▲ 29.4	▲ 23.5
営業利益	▲ 35.0	▲ 22.2	▲ 31.2	▲ 33.3	▲ 36.9	▲ 66.6	▲ 26.3	▲ 47.4	▲ 17.6	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 35.3	▲ 41.1
見通し	5.0	5.5	▲ 6.2	▲ 5.6	21.0	0.0	▲ 15.8	▲ 10.5	17.6	11.1	▲ 11.1	0.0	11.7

### <経営者の目・見方・etc>

寿司

- ・例年に比べ、降雪も少なく比較的温暖な陽気もあって堅調な推移であった。
- ・この時期落ち込む観光客が今年は更に少なかった印象がある。
- ・北海道での「寒波、大雪、大荒れ」がはるか遠くの松本の寿司ネタの値上がりに直接響いてしまう。
- ・雪も降らず良い天候に恵まれて1ヶ月通して良い月であった。

料理

- ・2月は雪が少なく寒さもまあまあだったが、お客様の来店は止まり、月末は選挙の影響が出始めた様子であった。

郷土料理

- ・1番暇な月でもあり、特別に上昇する気配もなかったが、1月分の不足を補えた。客の動向が読めない。降雪がなく助かった。

仕出し料理

- ・軽減税率、キャッシュレス決済化の対応、また働き方改革、関連法案等が小規模事業者にとって大きのしかかっている。

中華料理

- ・若者の姿が無く、高齢者が多い。
- ・会話の中で不安が多く、希望が持てない会話ばかりである。

創作料理

- ・昨年より続く不景気は好転せず2月の来客数は僅かで苦しい日々が続いた。3月に入り例年通りの予約は確保したものの先行きは不透明である。

居酒屋

- ・インフルエンザ等により客足が心配であったが、特に問題なく、豚コレラも特に問題なかった。専門店に厳しいと感じた。

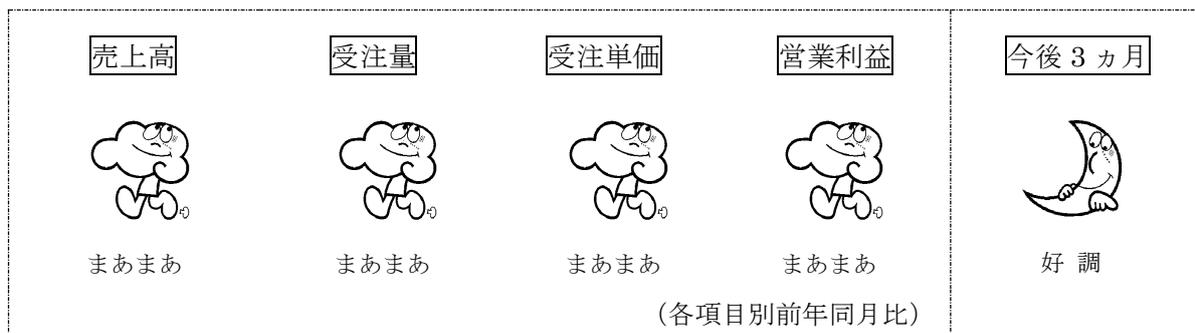
食堂

- ・2月は積雪もなく穏やかな好天に恵まれ、来店客も安定したせい去年よりも売り上げ増になった。

そば

- ・悪い時は悪いなりに暖くなる今後に期待したい。

## 6. サービス業



### 【項目別DIの推移】

	30年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月	2月
売上高	0.0	▲2.7	10.2	2.3	8.5	15.4	2.1	0.0	2.3	10.0	▲9.5	▲6.4	10.5
販売客数	▲12.8	▲5.4	6.1	▲8.9	6.4	1.9	▲8.4	▲4.2	▲7.0	0.0	▲9.5	17.0	2.1
販売客単価	0.0	8.1	4.0	4.4	4.3	5.8	4.2	4.2	7.0	4.0	0.0	▲2.1	6.2
営業利益	▲5.1	▲5.4	8.1	▲2.3	4.3	1.9	▲2.1	▲6.4	▲7.0	4.0	▲14.3	▲6.4	2.1
見通し	2.6	8.1	6.1	8.9	14.8	0.0	6.2	4.2	▲7.0	▲4.0	▲2.3	10.6	16.7

### <経営者の目・見方・etc>

自動車整備、 板金塗装	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまりに雪が少なく驚きの冬である。このままだと冬用タイヤのはき替えも早くなるだろう。お客様からすれば、今冬はタイヤを磨り減らすだけの冬だったようだ。このまま春が来てしまうのか。水不足の問題もありそうである。</li> </ul>
温泉旅館 タクシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前月に続き動きが悪い。(例年並)</li> <li>・2月は毎年であるが稼働率が悪かった。</li> <li>・オート燃料価格は1月、2月と値上がりに転じた。</li> </ul>
ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社進捗中のお客様には3月決算の所はないが、同業には現在がピークという所も多い。「日本のITベンダーが作るソフトは、現場のお役立ちツールの立ち位置だ」という記事があったが、良くも悪くも経営視点のツールではないところが、逆にシステム設計を支えている。</li> </ul>
旅行斡旋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GW(同時期比、東日本支店合計)、4月国内203%、5月国内155.9%、4月海外202%、5月海外113.5%である。個人旅行が前年を上回る。</li> </ul>
ペットサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月は来店数、売上高ともに前年を上回った。昨年より営業日数を少なくしたが、予想以上に良い結果であった。新プランの定着が要因といえる。</li> </ul>
マナー講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都会では景気が上昇傾向で、研修も増えている様だが、県内では難しい。しかし、こういう状況だからこそ人を大切に研修が必要かと考える。</li> </ul>
美容業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月は閑散期と言われるが前年度の約倍ほどの売り上げとなった。</li> <li>・気になるような動きはないが、景気はあまり良くない方向だと思う。</li> </ul>
ネイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ネイリスト協会では今年6月から新たにフットケア理論検定がスタートするため、2月は認定講師向けにフットケア理論習得セミナーが開催された。いままでの試験に加えて新たな検定が増えるなど、ネイル業界はさらに発展している。</li> <li>・現在では、ネイリストという職業が確立されてきているためネイルサロンが増加傾向にある。ネイル＝綺麗なアートではなく、ネイルケアの時代になってきている。</li> </ul>
教育業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月は季節柄体調を崩す方も多く、お休みが目立った。しかし、4月から入学する子に合わせて体験の問い合わせ等があったため期待したい。</li> </ul>

ホームクリーニング・  
リネンサプライ  
測量・建設コン  
サルタント業

・原油が再び値上げ基調となり経営を圧迫しそうである。

・2月末までは、官公庁からの業務の発注件数が多いと感じた。2月末以降の動きを注視したい。

